



海禅寺新聞 第20号

今年もあと僅かとなってまいりました。平成最後の年、檀信徒の皆さまにおかれましては、どのような年だったでしょうか。大切なお身内やご友人を亡くされた方もおられることでしょうか。またご自身に、そして近しい方に、嬉しい出来事があった方もおられると思います。諺に、「禍福(かふく)は糾(あざな)える縄の如し」というものがあります。不幸と幸福は、より合わせの縄のように交互にやってくるものだという意味です。止まない雨が降り続けるように、どんなに悪いことでも、いつか終わりがありません。またその雨自体を、よくないものと捉えるかどうか、状況によっても、人によっても違ってくると思います。この世に永遠不変のものはないのだと説く仏教では、だからこそ良きこと悪いこと、そうした物事に自分が捕らわれないように、ただただ今を丁寧に生きていくことを教えています。さて裏面の告知でも紹介していますが、今週から有志の皆さんが集まり、恒例の海禅寺しめ縄作りが行われています。今年1年間のあれこれを語り合い、縄をなう手仕事は、正に様々な彩りに溢れた、人生を象徴しているかのようです。残り数日となった今年日々を噛み締めつつ、新しい年が心豊かに過ごせる1年でありませう、皆さんの菩提寺として祈念し、更に精進して参ります。

合掌

生きる力 vol.95 送付

今回の特集は『お寺の行事に参加しよう 祈願の行事と年末年始』です。左記にもありますように、海禅寺でも新春の行事がございます。特には7ページに掲載されています【護摩供】の箇所をご覧いただけると、その意義がより深く理解することができます。他にも読み応えのある記事が満載です。年末年始に、ぜひ一読ください。

初祈願お申込みを送付

新春恒例となっております『初祈願大護摩祈禱札のお申込み』を同封いたしました。海禅寺の不動堂にて、ご本尊不動明王の御前で勤める護摩祈禱にて、お加持をした護摩札をお授けいたします。当山の不動堂ご本尊である不動明王は、真田昌幸公、信繁公、信之公も祈願をしてきた由緒ある霊尊であります。新年の2日は、読経と太鼓、そして法螺貝の法音が響く初祈願に、ぜひお誘いあわせて、ご参拝ください。皆さんで新しい年がよりよい年であることをお祈りいたします。



日程：新年1月2日(水)
時間：ご祈禱 午前10時～

※終了後は粗酒粗肴をご用意いたします。

※初祈願ご祈禱札をご希望の方は、12月29日(土)までに、同封の『初祈願御申込御芳名帳』にてお申込みください。

ファックスでも可 Fax: 0268-26-1147



修正会

新年最初の法要を、修正会と言います。過ぎ去った年の過ちを反省し、新年の初めに正しい行いを、ご本尊様にお誓いする法要です。海禅寺でも年が明けた0時より、本堂・不動堂・聖天堂でお勤めをいたします。どうぞご参拝ください。(申込不要)
日 時：新年1月1日 午前0時～

※本堂で住職が各家ご先祖の回向法要を、不動堂と聖天堂では副住職が祈願法要をお勤めします。

告知 やさしい仏教の勉強会

仏教さんコンニチワ



3年目となります、どなたでも参加できる、やさしい仏教の勉強会です。仏教とは机上で「学ぶ」というより、自分の人生で活かしてこそ、始めて意味を持つものです。この会では、「仏教をする」ことをテーマに、皆さんでその意味を考えていきたいと思えます。また数珠の意味や、お焼香の仕方など、仏事に関する素朴な疑問にもお答えしていきたいと思えます。ぜひお気軽にご参加ください。

※1回完結ですので、これまでにご参加されていない方でも、ご出席いただけます。

日程：新年2月24日(日)

時間：午後1時半～午後3時半

料金：300円(お茶・資料代として)
申込：電話またはファックスで、寺にお申し込みください。

海禅寺数珠つなぎ

海禅寺にかわる皆さんの声を、お数珠のようにつなげ、ご紹介していきます

お檀家 世話人 大西利光さん 8人目

今回は篤信のお檀家さんであり、かつ海禅寺の門前近くにある柳町で蕎麦屋を営む、蕎麦打ち職人の大西利光さんです。



私の一日は、朝2時前に調理場に入る事から始まります。前日夕方、妻が仕込んでくれた、発芽そばの芽を確認し、フードプロセッサーにかけ、そばの生地を作ります。丸抜実(そばの実の殻をむいたもの)の芽は出ると成長が速く、1時間で、0.5ミリ程伸びていきます。この芽が0.3ミリ位ほんの少し出たところで、そば生地を作らなると、生地は穀物の香りではなく、草の香りになってしまいます。この見定めは、そば打ちとしての、楽しみの一つです。発芽の際の酵素の働きで、生地は、粘りが強くなり、もっちりとし、甘くなります。発芽そばを打つ時は、心がわくわくしてきます。15年前に私が開発し、10年前には、日経新聞のお取り寄せそばの部門で、日本一になりました。人形供養で、お出ししているそばです。手打ちですと20食打つのに1時間ちよつとかかります。他に更科そば、挽きぐるみそば、田舎そばの4種類を一日に100食から200食以上打つのですから、そば打ちは時間との戦いです。

1年を通しての休日は、寒中に5日と、私と妻の誕生日（あたり）と、7日です。休まない（休めない）理由は2つあります。それは家業としてのそば店を守っていくことであり、そのためには立地である柳町を観光客でもって活性化させること。柳町には、日経新聞のパンコンテストで、3位になった天然酵母のパン屋さん「ル・ヴァン」があります。全国にファンを持つています。店主の甲田君とも話すのですが、「もう一軒、全国区の店があつたらいいねえ」と。折角、この上田市や柳町に来てくれるお客様をがっかりさせないために、休まないのです。

もう一つは、藝術を志す人達を、今この時を一緒に生きている仲間として、「助けたい、支えたい。」と考えていて、そのためのお金を捻出するために、休んでいられないのです。

私は18歳の時に結核になり、右肺を切除しています。昭和30年代は、今の癌以上に大変な病でした。医師に「若くして結核になった者は10年単位で生きる計画を立てなさい。」と言われました。今の癌の5年生存率を目安にするのと同じです。また、3年前に悪性リンパ腫が見つかり、脊髄に転移があれば、余命3カ月と言われました。幸い転移は無く、治療も続けています。死の病を2つ経験して「自分は生かされている」と思うのです。「人の為に働け」と天から言われている気がするのです。生きる事は1日1日の積み重ねです。1日1行文を作業表に毎日書き込みます。欲張って、15年分の作業表をつくりました。

私達夫婦は「子供は2人の芸術作品。子育てを頑張ろう」を合言葉にしてきました。まだ結果は出ていませんが。

34歳の長男は神田神保町で、小さなそ

ば店を経営しています。やがて上田に帰ってくるそうです。33歳の次男は音楽家になりました。一人とも海禅寺の住職が園長を務める芙蓉園で、乳幼児期に6年間の保育を受けました。本当に自由にのびのび、育んでいただきました。先生方の心が2人の心に強く生きていくよう願っています。

手打百藝お西 店主 大西利光 78歳



寺より

大西さんは、海禅寺が毎年11月23日（勤労感謝の日）に開催している『人形供養会』で、参拝者に貴重な供養蕎麦を振る舞ってくださっています。役目を終えたお人形との別れの場に、ある種の寂しさを抱えてお参りになる方は少なくありません。大西さんの蕎麦は、そんな皆さんの心を、暖かく癒してくださっています。

またここ数年、県内外から徐々に注目を集めている毎年5月の第3日曜日に行う『聖天祭』。初めてこの行事を思い立った際、総代世話人会でこの件の是非についてお諮りいたしました。その時、真っ先に賛同の声を力強く上げてくださったのも、お世話人を務める大西さんでした。

大西さんのエネルギーにあやかりながら、皆さんの海禅寺がより皆さんのために在るように、引き続き努力をして参ります。

報告 都七福神参り成満

去る10月28日（日）〜29日（月）の日程で、総本山智積院と日本で最古の歴史がある京都七福神を巡拝してまいりました。

日常の喧噪を離れて神仏に手を合わせ、秋の深まる京都を満喫しました。

往復バスをチャーターしての巡礼の旅。道中では参加者同士の親睦も深めつつ、よい時間を過ごさ

ことができ、ご参加の皆さんからは大変にご好評をいただいたお参り旅行となりました。ご希望にお応えして、来年度以降も、目的地を変えて開催したいと思えます。またお知らせいたしました折には、ぜひ皆さん奮ってお申し込みください。



海禅寺 総本山智積院参拝記念 平成30年10月29日

告知



しめ飾り作り会

今年も有志のお檀家さん方を中心に、しめ縄を手作りする会を開催しています。新しい年を迎えるにあたり、歳神様の依り代となる大切なしめ飾りです。最近ではホームセンターで、格安の物が簡単に手に入りますが、先人たちに習い、手作りしたものを飾ることで、各家に訪れる福徳はより大きなものとなるでしょう。本年は26日（水）頃まで毎日夕刻より予定しています。（時間は午後6時半〜9時くらいまで。お知らせが遅くなり失礼いたしました。）今年1年を振り返りながら新しい年の吉祥を願い、そしてよもやま話に花を咲かせながらの手仕事は大変に楽しいものです。詳しくは海禅寺にお問い合わせの上、ぜひお気軽にご参加ください。

報告 海禅寺住職

瑞宝双光章受賞

海禅寺住職が平成30年春の叙勲に際し、永年保育業界で勤めてきた功績を評価され、児童福祉功労による瑞宝双光章の栄を、今上天皇より賜りました。

これを受けて、去る12月8日（土）、長野県保育連盟主催により、祝賀会を催していただきました。海禅寺からは、総代・世話人の方々代表としてご出席をいただきました。

海禅寺と隣接する芙蓉保育園とは、社会に対する役割を全うするための、車の両輪であると思っております。この度の栄誉に恥じることのないよう、住職以下、寺族一同、より一層気を引き締めて、その職務を全うして参ります。どうぞよろしく



発行元 海禅寺